

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年11月24日(2006.11.24)

【公表番号】特表2006-504721(P2006-504721A)

【公表日】平成18年2月9日(2006.2.9)

【年通号数】公開・登録公報2006-006

【出願番号】特願2004-542491(P2004-542491)

【国際特許分類】

A 6 1 K	31/506	(2006.01)
A 6 1 K	31/4745	(2006.01)
A 6 1 K	31/704	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/02	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
C 0 7 D	401/04	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	31/506	
A 6 1 K	31/4745	
A 6 1 K	31/704	
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 P	35/02	
A 6 1 P	43/00	1 1 1
A 6 1 P	43/00	1 2 1
C 0 7 D	401/04	

【手続補正書】

【提出日】平成18年10月4日(2006.10.4)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

本明細書で使用されている、“抗癌剤に耐性”なる用語は、癌状態の処置における抗癌剤の治療的效果の減少または消失と定義する。癌の抗癌剤に対する耐性はBCRP、例えばBCRPの発現または過剰発現によるものであり得る。BCRPの低発現でさえ、抗癌剤に対して耐性の癌の原因であり得る。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

一般に、BCRP-介在耐性により影響を受ける抗癌剤は、アントラサイクリン細胞毒性剤およびカンポテシン由来トポイソメラーゼI阻害剤である。BCRP-介在耐性により影響を受けることが既知のアントラサイクリン細胞毒性剤は、ミトキサントロンおよびドキソルビシンを含む。カンプトセシン-由来トポイソメラーゼI阻害剤は、トポテカン

、 C T P - 1 1 とも呼ばれるイリノテカンおよびその代謝物であり、 S N - 3 8 とも呼ばれる 7 - エチル - 1 0 - ヒドロキシカンプトセシン、 9 - アミノ - カンプトセシン、 9 - ニトロカンプトセシン、 ルルトテカン(*lurtotecan*)、 ジフロモテカン、 B A Y 3 8 - 3 4 4 1 、 B N P 1 3 5 0 とも呼ばれる 7 - (2 - トリメチルシリル)エチルカンプトセシンおよび D B 6 7 とも呼ばれる 1 0 - ヒドロキシ - 7 - t - ブチルジメチルシリルカンプトセシンのようなシラテカン、 および C T 2 0 1 6 、 D E 3 1 0 、 T - 0 1 2 8 およびプロテカン(*PROTHECAN*)のような種々のポリマー接合カンプトセシン誘導体のようなカンプトセシンおよびホモカンプセシンの類似体または誘導体を含む。 トポテカン、 イリノテカン、 ミトキサントロンおよびドキソルビシンは、 本発明にしたがい使用する抗癌剤として特に有用である。